

角田支局記者 田村賢心の Let's KAKUDA!

「察」

警察の「察」は「察する」を意味すると最近聞きました。犯罪や事故を防ぐために危険を前もって知ること、さらには人の心理を読み取る力のことも指すそうです。東日本大震災や2019年10月の台風19号などの被災地では特に、犠牲者や行方不明者、その家族の思いをくみ取ろうとする意識が求められるのではないのでしょうか。大震災から10年を迎え、角田署が3月8～12日に展示した「祈りの木像」を眺め、そう感じました。

木像を制作したのは、市内在住の元宮城県警警察官。定年退職後に大震災が起き、死者、行方不明者、関連死者計約2万2000人を慰霊しようと昨年4月まで9年かけ、同じ数の木像を彫りました。角田署に並んだのは12体。台風19号の犠牲者も追悼するため、同署管内（角田市、丸森町）の犠牲者数（関連死を含む）に合わせました。

若手警察官に大震災の記憶や教訓を伝承するのも展示の狙いでした。制作者の元警察官に、行方不明者の捜索で若手に助言したいことは何かと尋ねました。「自分の家族を捜す気持ちで当たれ」。察するための基本姿勢と感じました。木像の制作も、家族のつらさや悲しみを我が事ととらえながら進めたのでしよう。

察することが大事なものは、警察の業務だけではなく。行政や福祉などの分野でも同様です。大震災では10年が経過した今も原発事故の避難者は多く、修繕できないままの家で暮らす「在宅被災者」の問題などもクローズアップされています。台風19号のケースも含め、復興のはざまに取り残された被災者の胸の内を察し、支援策を探る姿勢が必要です。

2月13日夜の地震は、大震災や台風19号に比べれば被害は小さかったものの、市内でも道路や建物などに被害の爪痕が残っています。「また大きな揺れが来たら、さらに崩れるのではないか」との声も聞かれました。関係機関が住民の不安を察しながら対応に動くことを望みます。

報道する側としても、目に見える復旧・復興の状況ばかりに気を取られず、被災者の不安や心痛を察しながら取材に取り組む姿勢が

河北新報角田支局 田村賢心 kakuda@po.kahoku.co.jp ※連絡の行き違い防止のため、配達関連のTEL 0224-62-1568/FAX 0224-62-0707 連絡は販売所までお願いいたします。→

欠かせません。祈りの木像から改めて教えられました。



角田署に展示された祈りの木像



角田市内の大森山から望む山元町の海

編集後記

●先日2月13日の地震に続き、またまた3月20日春分の日午後6時過ぎに県南で震度5強という強烈な揺れ。今回は沿岸部に津波警報が発令され、「来たか!？」という恐怖の気持ちが湧きあがって来ました。幸い今回は津波による被害はなかったようですが、沿岸部では避難されたみなさんも沢山いらしたと思います。日頃の防災意識がいかに大切かあらためて思い知らされました。宮城県に新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言が発令されました。お隣の山形市でも同様です。多くの皆様が地震やコロナで相当ストレスが溜まっている事と思いますが、各自の危機意識に頼るほかないのが実情です。三密を避けマスクを着用し…。いい加減うんざりでしょうがこれしかないのだと思います。春はすぐそこ。天気の良い日には河川敷や山の様な広々とした場所に行って、大声を出すとスッキリするかも知れません。大事なことは安全にストレス発散する事が出来るかどうかだと思います。

次回「あんふいに」は4月25日(日)発行予定です。

☆皆様からのイベント情報等をお待ちしています。原稿は毎月二十日頃までに、当店へ直接お持ちいただくか、FAXまたはメールにてお送り下さい。

編集 河北新報目黒新聞店 発行 〒981-1505 角田市角田字泉町137-2 フリーダイヤル (読むニュース) 0120-46-2004

皆様の元気のお手伝いを

月刊かほく あんふいに

第392号 令和3年4月号 【毎月最終日曜日 発行予定】

新聞配達 スタッフ 募集!!!



募集要項

- 募集地域 / 角田市内全域対象
- 年齢 / 20歳～65歳位
- 募集定員 / 2名
- 条件 / スーパーカブタイプのバイクに乗れる方
- 給与・配達時間 / 【参考例】>朝4時～1日2時間 (2区域程度)・月5万円

■ 問合せ・面接はお気軽にどうぞ 午前9時～午後4時 お電話の上、ご来店下さい。

◆ 集金員さんも2名募集中! ◆

☎63-3154